

# 平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立長良高等学校

学校番号 | 3

## I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「開拓者の気魄で勉学とスポーツにあたれ 礼儀正しくあれ」のもと文武両道を目指し、確かな学力と豊かな人間性を備えた生徒を育成する。 (1) 自ら課題を見つけ、主体的に判断し、解決していく力を育成する。 <知育> (2) 「生きる力」を育み、他人を思いやる豊かな心を育成する。 <徳育> (3) 健康の保持増進を図り、心身ともに健康な身体を育成する。 <体育>	
2 評価する領域・分野	◇教務（学習指導・教育課程）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・授業方法等学習指導に対する取り組みについては概ね良い評価が得られた。 ・学習内容がより一層充実したものとなるように工夫・改善を要望する意見がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇授業時間の確保及び調整 ◇諸活動における教職員の協力体制の充実 ◇学力向上に向けた教職員の組織的な対応の推進 ◇メディアによる情報発信の充実	
5 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 週2回(火曜・木曜) 50分7時間授業を実施する。また、祝日等により、特定の曜日の授業が欠けないように、曜日の振替を実施し、授業実施曜日の調整を行う。 (2) 今年度から、中学生高校見学会を全職員体制で実施する。 (3) 今年度は、参観者が実施者に感想を提出する方式で授業公開を実施する。 (4) 学校のホームページを携帯電話からも確認できるようにする。	
6 取組状況・実践内容等	7 評価	
・週2回(火曜・木曜) 50分7時間授業を実施し、また、曜日の振替を実施することで、授業時間の確保と授業実施曜日のアンバランスの解消に効果があったと思われる。 ・中学生高校見学会を全職員体制で実施し、昨年よりスムーズに千人以上の参加者に対応することができた。 ・公開授業の参観者の意識に改善が感じられた。 ・学校のホームページを携帯電話からも確認できるようになり、緊急時の連絡体制がより一層充実したものとなった。	(A) B C D  (A) B C D A (B) C D A (B) C D	
8 成果・課題	○各教科の協力もあり、授業時間の確保と授業内容の充実について概ね成果が見られた。 ○学校ホームページの機能充実の一環として、携帯向けの情報発信を行い、生徒から好評を得た。今後も、より有効な情報発信方法について検討したい。 ○他教科の授業を参観することにより、担当の授業内とは異なる生徒の様子を知ることができた。今後も、積極的に授業公開等を行い、生徒を多面的に理解する機会を増やしたい。 ●少数ではあるが、学習時間が少ない生徒もいるため、家庭学習の充実を図りたい。	総合評価 A (B) C D
9 来年度に向けての改善方策案	・公開授業等の方法を工夫し、自己の授業改善だけでなく、生徒の多面的理解に活用できる機会の充実を図る。 ・家庭学習の充実を図るため、各教科との情報交換等より一層の連携を図る。 ・中学生見学会は本校の教育活動を多くの人に知っていただく機会であり、模擬授業等見学内容の一層の充実を図る。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成23年1月28日

### 【意見・要望・評価等】

- ・週2回7時間授業を実施したり、授業変更をまめに行うなど、授業確保の工夫をしている点はよい。
- ・先生方の生徒に対する学習指導体制が充実している。授業見学をした際に強く感じた。
- ・公開授業はグループを作って見せ合うと、遠慮無く批評ができてよい。また、他教科の授業を参観すると、他教科のおもしろさ、すばらしさ、考え方の違いが分かる。フランクな態度で見合うのが効果的である。
- ・ゆとり教育の見直しが図られるなど、現場を混乱させる状況があり、教科指導がやりにくくなっているのではないか。
- ・職場体験等のキャリア教育が大切だと考えるが、高等学校ではキャリア教育に時間を割く事が困難ではないか。
- ・携帯電話からホームページにアクセスできることを知らなかった。緊急時の対応については生徒に徹底する工夫をしてほしい。
- ・一斉メール配信を本校でも検討してはどうか。中学校では保護者の携帯への配信も含め活用されている。保護者へも配信があると情報の確認もでき、その情報を媒介にして親子の会話も成り立つ。

# 平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立長良高等学校

学校番号 3

## I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「開拓者の気魄で勉学とスポーツにあたれ 礼儀正しくあれ」のもと文武両道を目指し、確かな学力と豊かな人間性を備えた生徒を育成する。 (1) 自ら課題を見つけ、主体的に判断し、解決していく力を育成する。 <知育> (2) 「生きる力」を育み、他人を思いやる豊かな心を育成する。 <徳育> (3) 健康の保持増進を図り、心身ともに健康な身体を育成する。 <体育>
2 評価する領域・分野	◇生徒指導
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナー指導、身だしなみ指導等、良き基本的生活習慣の徹底に関しては、保護者・生徒共に評価が高く、日々の生徒指導のあり方への理解が浸透している。</li> <li>・個々の生徒に相応しい生徒指導のあり方が、要請されている。</li> <li>・いじめや差別を許さないという断固とした姿勢を、今まで以上に明確に打ち出すことも大切であると考える。</li> </ul>
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇『礼儀正しく、そして1と0へのチャレンジ』のスローガンの下、規範意識と基本的生活習慣の確立を目指す。 ◇生命の安全に努めるとともに、豊かな人間性と逞しい実践力を身につけた生徒の育成に努める。 ◇文武両道の実践をめざし、目的意識を持った意欲的な生徒の育成を図る。
5 目標の達成に必要な具体的な取組	(1) 毎朝登校時に、生徒指導部の職員と学校長で、交通安全及び挨拶指導を実施した。 (2) 日頃から、身だしなみ指導には力を入れ、品格ある長良高生の育成に向け努力した。 (3) 年4回、交通安全運動の期間に合わせて、全職員による交通安全指導を実施し、交通マナー向上への一助とした。 (4) 春、秋2回のQ-U検査を実施して、生徒の内面把握に努め、事後の指導に活用した。
6 取組状況・実践内容等	7 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時の指導の賜物か、気持ちの良い挨拶を返せる生徒が増え、遅刻者も確実に減少傾向にある。</li> <li>・今年度から、月間生徒指導目標を掲げ、清楚で高校生らしい身だしなみの実現に向け、指導を強化した結果、カーディガンの黒・紺着用の徹底がはかられ、スカート丈、シャツ出し、ボタンはずし等が改善され、全体として好ましい状況である。職員の共通理解のもと、さらなる努力を積み重ねていきたい。</li> <li>・相変わらず交通事故は頻発し、自転車通学者のマナー改善に向け、努力が必要である。</li> </ul>	A (B) C D  A (B) C D  A B (C) D
8 成果・課題	○生徒の規範意識も少しずつ向上し、全体としては落ち着いた状況にある。 ○心の問題を抱える生徒への対応が、迅速かつチームで出来たことは評価できる。 ○人間としてのバランスのとれた生徒が多く、元気な学校と言える。 ●問題行動も多く、善悪の判断力に欠ける生徒への対応が今後の課題である。 ●校内での盗難、器物損壊など、予防的生徒指導の必要性を強く感じる。
9 来年度に向けての改善方策案	総合評価 A (B) C D
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員の共通理解のもと、生徒の将来を見据えた生徒指導の実践を図るべく、協力体制を構築していく。</li> <li>・全職員が心をつなげて、「良き長良高校」の実現のため、日常生活のあらゆる場面で積極的に声かけを行い、「見ているよ」という姿を生徒に見せる。</li> <li>・今まで以上に、職員間での情報交換を大切にする。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成23年1月28日

### 【意見・要望・評価等】

- ・先生方の日々の指導が、生徒の服装や行動に表れており、さわやかな高校生らしい生徒が多いことに好感が持てる。特に運動部の生徒たちはあいさつがしっかりでき、礼儀正しい。
- ・校内にゴミが落ちておらず、安心して生活できる環境が整っている。
- ・生徒指導の実践は地道に行われている。生徒指導主事をはじめとした担当の先生方が毎朝定位置であいさつ運動や交通安全の指導をしておられるので、生徒の好ましい生活態度が形成されたのだと考える。
- ・「いじめや差別があるか」というアンケートの問いに対して、多くの保護者が「わからない」と回答しているが、この結果は、学校の実態が保護者に伝わっていないことを表すのではなく、いじめに悩む子どもがいないこと、いじめの事実を耳にしたことがないことを表しているのではないかと考えてよい。
- ・課題にあげられた一部の生徒の問題行動については、信頼関係に基づく生徒の心に響く指導によって克服されることを望んでいる。

# 平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立長良高等学校

学校番号	3
------	---

## I 自己評価

<p>1 学校教育目標</p>	<p>校訓「開拓者の気魄で勉学とスポーツにあたれ 礼儀正しくあれ」のもと文武両道を目指し、確かな学力と豊かな人間性を備えた生徒を育成する。</p> <p>(1) 自ら課題を見つけ、主体的に判断し、解決していく力を育成する。  <span style="float: right;">&lt;知育&gt;</span></p> <p>(2) 「生きる力」を育み、他人を思いやる豊かな心を育成する。  <span style="float: right;">&lt;徳育&gt;</span></p> <p>(3) 健康の保持増進を図り、心身ともに健康な身体を育成する。  <span style="float: right;">&lt;体育&gt;</span></p>
<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇進路指導</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、「進路情報が保護者にまで届いていない」という指摘があった。週1～2回の「進路だより」を発行して、生徒や保護者に具体的な進路情報をタイムリーに提供する必要がある。</li> <li>・21年度アンケート結果によると、進路指導に関する質問「本校は生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」に対して「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を合わせた答が、保護者で9.0%、生徒で12.3%、「本校は生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしている」に対しては、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を合わせた答が、保護者で8.6%、生徒で12.4%であった。全体としてほぼ8割前後の生徒や保護者が、本校の進路指導を支持していることがわかるが、この数値をさらに高めたいと考える。特に、例年わずかながらも存在している「まったくあてはまらない」という答が0%になることを目指したい。</li> </ul>
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇進路目標を実現できる確かな学力を身につけさせる。</li> <li>◇国公立大学100名合格。</li> <li>◇適時かつ適切な進路情報の提供。</li> <li>◇早い段階から明確な進路意識・進路目標を確立させる。</li> </ul>
<p>5 目標の達成に必要な具体的な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全職員の協力を得て、土曜活用を更に充実・発展させる。</li> <li>(2) 1・2年生の補習を指定者補習を中心とし、学年全体の底上げを図る。</li> <li>(3) 1年生の早い段階で「進路ガイダンス」を実施し、進路についての意識を高める。</li> <li>(4) 各教科と連携した模試の徹底分析と事後指導により、受験に必要な学力の定着を図る。</li> <li>(5) 適切かつ計画的な進路講話の実施により、進路意識の覚醒を促す。</li> <li>(6) 進路情報を精選し、必要な情報をきちんと生徒及び保護者に伝えるシステムを確立する。</li> </ul>
<p>6 取組状況・実践内容等</p>	<p>7 評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜活用は、昨年の年間8回から今年は19回と大幅に回数を増やし、4期に分けてきめ細かく募集、部活を引退した者から順次参加できるようにした結果、第3期までに延べ千人を超える生徒が参加した。学年・教科の全面的な協力体制のもと、模試の結果が悪かった科目は、即講座を増やすなど柔軟な対応ができ、成績の向上につながった。</li> <li>・進路ガイダンス、進路講話、指定者補習など、年度当初計画したことがきちんと実施でき、良い効果を上げた。</li> <li>・「進路だより」の発行、「進路ポスト」の設置など、生徒のみならず保護者にも好評であった。</li> <li>・早い時期から「推薦入試に関する申し合わせ事項」を策定し、職員間の合意のもと徹底を図ることができたため、安易に推薦に流れる生徒が少なく、学年全体が落ち着いたムードでセンター試験に向けて準備を進めることができた。</li> </ul>	<p style="text-align: center;">(A) B C D</p> <p style="text-align: center;">A (B) C D</p> <p style="text-align: center;">A (B) C D</p> <p style="text-align: center;">(A) B C D</p>
<p>8 成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昨年からはじめた土曜活用を、進路指導の中にしっかりと定着させることができた。</li> <li>○ 指定者補習を英数国3教科に広げ、「長良高校独自の補習」として位置づけた。</li> </ul>
<p>・</p>	<p style="text-align: center;">総合評価</p> <p style="text-align: center;">A (B) C D</p>

課題	<p>○各教科に模試対策の協力をしていただき、特に3年生については近年にない好成绩を収めることができた。</p> <p>○一部の教員に負担が集中していた小論文・面接指導を全教員で分担して行うことができた。</p> <p>○進路情報の伝達に力を注ぎ、生徒・保護者の興味・関心にある程度応えることができた。</p> <p>●1・3年に比べ、2年生の中～下位層の厚さが心配される。</p> <p>●1年生の「進路ガイダンス」が時期的にやや尚早で、生徒の意識がついていかなかった。</p>
<p>9 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生「進路ガイダンス」の時期を検討し、より効果的な実施方法を考える。</li> <li>・3年生の成果の検証を踏まえ、1・2年生の学力向上に向けて対策を練る。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成 23年1月28日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の日々の指導が合格者数等のデータに表れている。学校全体で進路指導に力を入れられていることは評価できる。</li> <li>・全職員の協力のもと、土曜活用の充実・発展は素晴らしい。</li> <li>・土曜補習は効果的だが、先生方の負担も大きいのではないか。無理がないように実践してほしい。</li> <li>・土曜活用はとても有意義である。自分の子どもも毎回利用させてもらった、また、年末年始の学校開放もありがたかった。子どもの悩みに先生方が親切に伝えてくださるのが嬉しい。</li> <li>・進路ガイダンスや大学見学は進路意識の高揚に効果的である。今後も積極的に推進してほしい。</li> <li>・2年生の中だるみの時期に、生徒が進路についてより深く考えられるような指導があるとよい。</li> </ul>
---